

平成 30 年度スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会議事概要

1. 日 時：平成 30 年 10 月 26 日（金）13：30 ～ 16：30

2. 場 所：弘済会館「萩」

3. 出席者：

（委 員）明石 委員、安藤 委員、帯野 委員、梶山 委員、木村 委員、眞田 委員、日比谷 委員、マルクス 委員

（文部科学省）岩本 大臣官房文部科学戦略官、蝦名 高等教育企画課長、林 同国際戦略分析官、進藤 同国際企画室長 ほか

（事務局）家 独立行政法人日本学術振興会理事、石田 同人材育成事業部長、成田 同大学連携課長 ほか

4. 概要

（1）平成 30 年度フォローアップ結果について

○平成 26 年度に採択された 37 大学の平成 29 年度実績等について、「資料 3-1 スーパーグローバル大学創成支援採択事業のフォローアップについて」及び「資料 3-2 平成 30 年度フォローアップ結果について」に基づく事務局からの説明に続き、質疑応答があった。主な意見は以下のとおり。

- ・事業開始以来、取組は順調に進捗してきたが、平成 28 年度以降は概ね頭打ちの状態にあると言える。今後、その原因について分析していく必要がある。
- ・本事業の今年度補助金は大幅に削減されているが、国として、各大学が取組を安定的に進められるような環境づくりを支援していくことが求められる。
- ・学長の交代やアドミニストレーションをめぐる環境の変化等を背景に、本事業の取組の一部が十分に継続されないケースも見受けられるが、大学全体で構想の実現に向けた改革を推進していくことはもちろんのこと、その重要性を引き続き強調していくことも必要である。
- ・大学の国際化に対する意気込みがよく伝わってくる大学もあり、意識改革が順調に進んでいる点は評価できる。
- ・ナンバリングの実施や外国語のみで卒業できるコースの設置など、制度面での改革が順調に進んでいる点は評価できる。一方で、学生の語学レベルの向上のための取組や留学する学生数などに遅れが見られる。これらは学生自身の意識改革にも関連する部分だが、大学がそれを促していくことが重要である。

（2）平成 31 年度概算要求について

○「資料 4 平成 31 年度概算要求について」に基づく文部科学省からの説明に続き、質疑応答があった。主な意見は以下のとおり。

- ・今年度の補助金が昨年度比で大幅に削減された理由は何か。各大学が申請した「発展的な構想の見直し」の内容からも、補助金削減の影響を否定できないものが見受けられる。
- ・各大学においては支援終了後の自走化を見据えた上で取り組まれているところではあるが、国としては、財政状況が厳しい中で、それをこれまで以上に加速させる必要があるとの認識をもっていることが背景にあるのではないかと。また、本事業による支援を受けていない大学においても大学改革や国際化が進められることで、我が国の大学が取り組むべき共通の課題となり、全体として底上げが図られていることも理由のひとつと言えるのではないかと。

（3）「スーパーグローバル大学創成支援事業」に係る発展的な構想の見直しについて

○『「スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会」の審議内容等の取扱いについて』（平成 26 年 4 月 8 日スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会決定）1.（1）①に関する事項につき、非公開で審議された。